

News release

スイス・リーのシグマ調査－サイバーリスクは複雑ながら、保険会社と企業は十分な対応が可能と結論、スイス・リー・インスティテュートが正式に発足

- サイバー攻撃の潜在コストは急速に増大しており、サイバーセキュリティとリスク耐性が企業の懸念事項として拡大しつつある
- サイバーリスクに特化した保険市場が急成長しているが、補償の規模はまだ比較的小さい
- 商品およびプロセスのイノベーション、そしてビッグデータとスマートアナリティクスがサイバー保険ソリューションの改良を促進
- サイバーレジリエンスの強化に政府が重要な役割を担う
- 本調査は、本日発足したスイス・リー・インスティテュートの発行による最初の報告書

チューリッヒ、2017年3月1日 – 事業者にとってサイバーリスクの懸念はますます増大しており、最近の攻撃事例は、サイバー侵害のコストがデータの紛失または破損が管理の限界を大きく超える可能性があることを示しています。スイス・リーの最新のシグマ調査『Cyber: getting to grips with a complex risk』（複雑なサイバーリスクへの対処）では、事業者のリスク管理プログラムにサイバーセキュリティを統合するためにやるべきことがまだたくさんあると結論づけられています。その一環として、サイバーレジリエンスを高める取り組みが進められています。サイバーリスクに特化した保険市場は急成長していますが、潜在的なリスクエクスポージャーと比べると補償範囲が狭いのが現状です。今後は商品・プロセスのイノベーション、そして高度な分析がサイバー保険ソリューションの改善を促し、保険引受能力と補償範囲の両方の境界を拡張してくれるものと思われます。最終的には、特に極端に壊滅的な損失事象に関連するものなど、一部のサイバーリスクは付保対象となり得ない可能性もあります。そのようなリスクについては、政府支援による補完策が必要になるかもしれません。

最近注目を集めた複数のサイバー攻撃により、サイバーセキュリティ侵害の被害がデータの喪失や破損の管理の限界を大きく超えることがますます明らかになりました。企業は今、風評や物理的・知的財産の潜在的な損傷、さらに事業運営の混乱を考慮に入れなければなりません。サイバーインシデントに関連する潜在的コストの範囲と規模の拡大は変化し続けるサイバーリスクの構図を反映しており、次の3つの主な動力で形成されています。

- デジタル変革の速度上昇と範囲拡大
- インターネット対応デバイスやクラウドコンピューティングなどの急速な普及に伴うハイパーコネクティビティに起因する脆弱性の要因拡大

Darren Pain, Zurich
Telephone +41 43 285 2504


Kurt Karl, Armonk
Telephone +1 914 828 8686

Jonathan Anchen, Bangalore
Telephone +91 80 4900 2650

Investor Relations, Zurich
Telephone +41 43 285 4444

Swiss Re Ltd
Mythenquai 50/60
P.O.Box
CH-8022 Zurich

Telephone +41 43 285 2121
Fax +41 43 285 2999

www.swissre.com
 @SwissRe

- サイバー攻撃の成功から経済的利益を得るチャンスを窺うハッカーたちの高度化

危険の認識が高まっているにもかかわらず、企業は一般的にサイバーリスクへの対応の準備が不十分です。現在、サイバーセキュリティを自社のリスク管理の主流に取り入れている企業は比較的少ないです。多くの法域で法制度化が進み、強化されたデータ保護のセーフガードの構築が企業に求められるなどすれば、規制が変化の促進役となる可能性があります。その結果、「企業は規模の大小を問わず、サイバーセキュリティアーキテクチャーに対する投資を増やし、事前および事後的損失リスク管理能力を強化する必要があります」とスイス・リーのチーフ・エコノミストであるクルト・カールは述べています。

複雑なリスクの管理

サイバーリスクについては、多くの企業が吸収力のより高い第三者への移転を目指しています。カールはさらに次のように述べています。「サイバーリスクに特化した保険市場は成長しており、この特殊保険種目の引受に目を向ける保険会社の数は増えています。」サイバーリスクに特化した保険はデータやネットワークのセキュリティ侵害に対する保護を主契約とするのが一般的で、現在の市場において引受能力限度額は約 500 万米ドルから 1 億米ドルの間となっています。しかし、一部の重大なサイバー関連リスクは概ね無保険のままであり、既存の保険補償範囲の規模は民間企業の潜在的なリスクエクスポージャー全体と比べると相対的に小さい状態です。

保険ソリューションの開発に係る主な制約は、サイバーリスクの本質的な性質と関連があります。サイバーリスクは複雑で、特に急速に変化する技術環境や、将来の損失の可能性を予測するためのサイバー関連請求履歴情報が不足していることから、定量化は困難です。保険会社とリスク分析ベンダーは、決定論的シナリオ分析や確率モデルを含む様々なアプローチを用いてサイバーリスクのモデル化の実験を進めており、サイバー事象の潜在的な損失額の推定を試みています。自然災害など他のリスクの経験測に照らせば、基本的なリスクドライバーの理解が深まり、利用できるサイバー被害のデータが増えるにつれ、モデルは継続的に改善していくという望みが見えてきます。

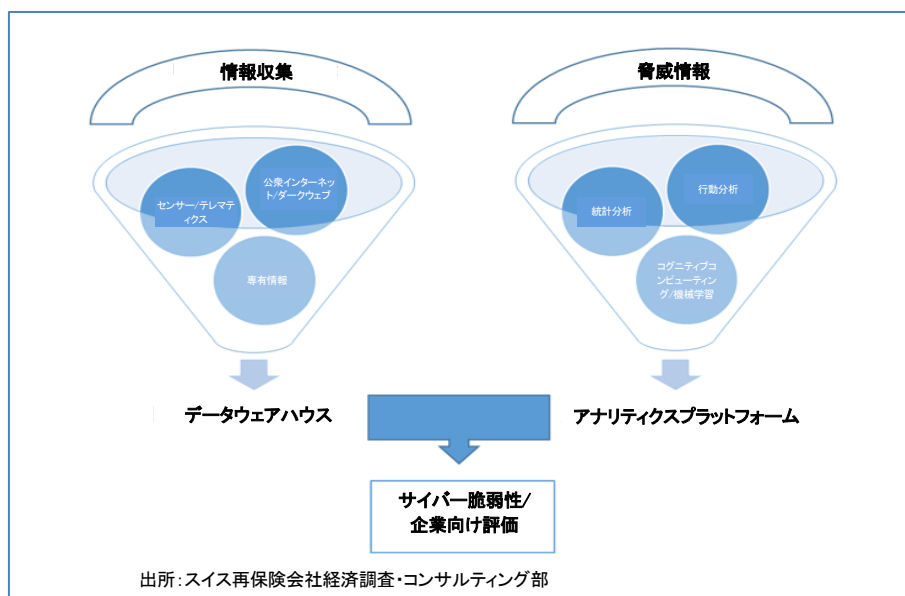
商品とプロセスのイノベーション

一方で、サイバーリスク管理能力の向上においては、保険における商品・プロセスイノベーションとその他リスクの移転メカニズムが重要な役目を果たします。イノベーションのスピードに影響する重大な要因は、関連データとサイバーリスクの正確な引受に必要な脅威情報の把握と分析です。情報の収集と共有方法を向上させるための取り組みが、産業界を挙げて進められています。例えば、多くのリスク分析ベンダーがデータスキーマを構築し、サイバーリスクエクスポージャーの特定、定量化、保険会社への報告のための標

準アプローチを企業に提供しています¹。同様に、CRO フォーラムは企業がサイバーインシデントや脆弱性についての特徴的な情報を記録するための共通言語やフレームワークの確立を促進しています。

保険会社としては、それほど複雑ではなく、柔軟性の高い保険商品の開発を目指しています。これには、これまで保険が不足し、大企業に比べてサイバーリスクへの対策が十分に整えられていない場合が多かった中小規模の企業のためのカスタマイズが可能な保険も含まれます。さらに一部の保険会社・再保険会社は、知識のギャップを埋め、顧客に対して追加サービスを提供・拡大する目的でサイバーセキュリティやデータアナリティクスのベンダーとの提携を検討しています。より一般的には、高度な分析が保険・再保険の従来の引受ツールを増強し、急速に変化し続ける潜在的なリスク要因への迅速な対応に役立つ可能性があります。

図表 1: 引受の補足ツールとしてのスマートアナリティクス



サイバーリスクに対する損失吸収力を全体的に高めるもうひとつの方法は、資本市場の投資家がリスクエクスポージャーの一部を引き受けることを可能とする投資商品の開発です。現在、サイバーリスクのような事業型のリスクを補償する保険リンク証券(ILS)を開発する取り組みが一部で行われています。サイバーリスクを対象とした ILS 市場はまだ揺籃期にありますが、成長する可能性は十分に考えられます。

政府の役割

¹ 参考例: "RMS Launches New Data Standard for Managing Cyber Insurance". (RMS がサイバー保険管理のための新データ標準を導入) *rms.com*, 2016 年 1 月 19 日、ならびに Verisk Cyber Exposure Data Standard and Preparer's Guide (Verisk サイバー・エクスポージャー・データ標準および作成ガイド), AIR, 2016 年。

保険引受能力の境界を広げるために、企業は持続可能な市場の創設にむけて取引保険会社と共に取り組む必要があります。また、政府はサイバー情報の把握や共有方法の改善策を含めたサイバーレジリエンスの促進、そしてサイバー空間の使用および保護の仕方についての法律や規則の制定において重要な役割を担います。サイバー脅威の誘引を再構築し、認知を向上させることにより、政府は民間セクターを、改善された市場主導のソリューションの開発へと向かわせる働きができます。しかし、サイバー事象の中には損失の潜在的な規模が大きすぎて、民間の保険・再保険セクターでは吸収しきれないものもあります。特に、重要なインフラやネットワークの広範な混乱などのピークリスク事象は、巨大な集積損害にもつながりかねません。

今回のシグマ調査は「スイス・リー・インスティテュート」の名の下で発行される最初の号です。スイス・リー・インスティテュートは、業界のソートリーダーとしてのスイス・リーの地位を確立し、質の高い調査力と活動範囲の広さをひとつ屋根の下に集約するという使命を持ち、2017年3月1日に正式発足いたします。スイス・リー・インスティテュートは、保険業界をリードする研究調査出版物である『シグマ調査』を含め、スイス・リーの調査に基づくレポートを作成します。

スイス・リーについて

スイス・リー・グループは、再保険、保険、その他保険ベースのリスク移転で世界をリードする大手再保険会社です。直接、またはブローカーを通して、世界中の保険会社、中規模企業から大企業、公共部門のお客様にサービスを提供しています。あらゆる保険種目の標準商品からテイラーメイドの商品までを携え、スイス・リーは、その資本基盤と、事業や発展に付随するリスクを負うことを可能にするための専門知識と革新力を展開しています。1863年にスイスのチューリッヒで創業されたスイス・リーは、世界約70カ所で事業拠点を展開しています。スタンダード&プアーズから「AA-」、ムーディーズから「Aa3」、A.M. Best から「A+」の格付けを取得しています。スイス・リー・グループの持株会社である Swiss Re Ltd の登録株式は、スイス証券取引所のメインスタンダードに準拠して上場しており、ティッカーシンボル SREN で取引されています。スイス・リー・グループに関する詳細は、ウェブサイト(www.swissre.com)をご覧ください。または Twitter で(@SwissRe)をフォローしていただきますようお願い致します。